

旧赤松家だより

令和2年2月26日



春が待ち遠しいこの時期。庭内の花壇では、ビオラやパンジーがかわいらしい花を咲かせています。

作家である司馬遼太郎の著書、「街道をゆく 15 巻」の「開陽丸」の章に以下の記述があります。

「明治の海軍の造船面を担当した赤松大三郎（則良）は、晩年、禿頭白髪とくとうの老人じみたにぶい衣装の写真からみれば、じつに足もとの軽快そうな感じで、服装も異風である。羽織は自分で考案したのか、黒っぽい洋服生地コートに陣羽織のように折り返しをつくり、羽織のひもで胸もとをむすんでいる。その黒っぽい衿もかわっている。モモヒキのように細くしたズボンに、黒足袋をはき、白鼻緒の草履をうがっている。杖のように突いている太刀は白柄に鞘は陣太刀づくりで、ぜんたいがいなせというほかない。」



則良 23 歳の写真

これは当記念館にも展示されている、右の写真を見て書いた文章ではないかと思われます。若い頃の則良はどんな人物だったのでしょうか。もし司馬遼太郎が則良の登場する小説を書いたとしたらどんな人物に描いたのでしょうか。とても興味深いところです。

内蔵1階ギャラリーでは、26日から積志刻字同好会のみなさんによる刻字の作品展を開催しています。書を題材とし、これを板材に刻し金箔等で仕上げた作品約40点を展示しています。ぜひ、ごらんください。

内蔵ギャラリーのご案内

『積志刻字同好会展』

開催期間：2月26日（水）～ 3月10日（火）

*休館日 3月2日（月）、9日（月）

開催時間：午前9時～午後4時30分

（最終日は午後2時半まで）

入場料：無料

出展者：積志刻字同好会

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340

積志刻字同好会展



出品者 有賀雪嶺 犬塚千尋 大田善郎
加藤紫峰 賀茂翔龍 鈴木克美
松下昇
代表 金原驥風